

遊工房アートスペース

年次報告

2021



遊工房アートスペースのアーティスト・イン・レジデンス事業は、文化庁・アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流事業として採択され、助成を受けています。

目次

・はじめに — 「アーティストの置き土産」 - 遊工房の 30 年の宝物

・遊工房アートスペースについて — ヴィジョン、ヴァリュー、ミッション

1. 主要事業

1 - 1 AIR プログラム

1 - 2 展示プログラム

1 - 3 イベント - アーティストトーク、クリティック、セッションなど

2. 関連活動

2 - 1 AIR 交流プログラム

2 - 2 Y-AIR の実践

2 - 3 ネットワーク活動

2 - 4 地域活動、コミュニティーアート

2 - 5 調査研究

2 - 6 アーカイブス

・出版物、掲載記事など

・2021 年活動一覧 - Overview

* 本文中の記号について

文 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業

M マイクロレジデンス関連事業

Y Y-AIR(若手アーティスト育成プログラム) 関連事業

E ECOC(欧州文化首都) 関連事業

R YRP, Youkobo Returnee Residency Program

まえがき

「アーティストの置き土産」 - 遊工房の 30 年の宝物

遊工房アートスペース、村田達彦・弘子

2021 年、遊工房は海外からの芸術家の受入れを留めざるを得なく、交換プログラムは休眠状態となった。2020 年 3 月から受付（新規申請を含む）が停止され、COVID-19 コロナ禍の 2 年目は由々しい状況であった。

2021 年前半は、地元の芸術家の活動の場として注意深く活動を続けたが、オリンピックの強制開催によるコロナ禍の不安要因により、6 月以降は完全に閉鎖した。

この隙間を長期的な活動に生かすために、30 年以上にわたって蓄積されながらも、後回しにされてきた遊工房の活動の資料整理を開始した。海外のアーティストや展覧会活動時の国内のアーティストからの作品、カタログ、活動記録資料などを全て集めての大作業となった。過去 30 年余の間の活動をバックグラウンドとし、整理する過程で、十分な時間と作業スペースを確保できたことは幸いであった。そして、「今できること」と「やりたいこと」が明確になってきた。

遊工房の 2 か所のスタジオで並行して作業を進め、1 階のギャラリースペースでは、遊工房で滞在制作したアーティストが残っていた作品や、地元アーティストの展覧会で得た作品他、関係する様々な資料の整理を始めました。2 階のスタジオスペースでは、作品カタログなどのドキュメント含む、記録文書を中心に整理した。

この作業の結果として、1 階ギャラリースペースでは、サブ・ギャラリースペースも設置され、これらのスペースの特性に合わせて作品の展示配置が進められた。2 階の大きなスタジオでは、時間軸に基づいて、アーティストの活動、ステータス、その広がりに関するドキュメントが整理されていった。やがて、完成途中ではあるが、スタジオの壁には、遊工房の歴史の大きな巻物（絵巻）が登場した。

整理が進み、オリンピックの混乱で始まった東京の医療崩壊が落ち着きを見せた頃、2 つのテーマで展示をまとめて公開することにした。

- (1) アーティストが置いていった作品の展示を通して、「AIR の真実」を視覚化する。
- (2) アーティストの滞在制作から生まれた様々な交流を明確にすることで、「AIR の本質」を視覚化する。

近隣の公園「都立善福寺公園」で開催される毎年恒例の野外展「トロールの森」と同期しての 11 月開催を「アーティストの置き土産 vol.1」¹として決定。その後、12 月に「同タイトルの vol.2」²を開催した。

<https://vimeo.com/696402705> 参照。

来るべき 2022 年は、コロナ禍で学んだことを活かして、パンデミックが落ち着くであろう新年からじっくりと活動を再開していきたいと考えている。そして、このパンデミック禍の 2021 年夏から晩秋にかけての半年の作業と展示機会を通して見えてきたこと、「なぜ AIR を始めたか?」、「AIR とは?」、「アーティストとは?」、さらに「若い世代に期待する」を主旨とした絵巻・「遊工房マンダラ」を完成したい。そして、私たちはコロナとの新たな平安な社会で前進したいと思う。

(2021 年大晦日)

遊工房アートスペースについて

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。真侷に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通じたアート活動を継続していきます。

ヴィジョン（実現したい未来）

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支援、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

バリュー(核となる価値観)

・開放性と交流:

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。

・フレキシビリティ(柔軟性):

アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取り組み方が不可欠であると認識します。

・自律性:

コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

ミッション（果たすべき使命）

真摯に活動を続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。（AIR プログラム、ギャラリー・プログラム）国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れられる社会の形成を目指します。（アート・イベント、トーク）他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。（Res Artis、Microresidence Network、AIR Network Japan、AIR-J など）人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

1 主要事業

1-1 AIR プログラム

2020. 04. 01 - 2020. 11. 30 COVID-19 によるパンデミックの為、閉鎖

2020. 12. 03 - 2021. 02. 28 進藤詩子

文

2020. 12. 03 - 2021. 02. 28

進藤詩子 [日本]

東京生まれの美術家。研究と制作を両輪とした芸術実践を国内外で展開している。近年の活動では、光と闇の間でさまざまに「うつ（移、写、映、撮）り」、濃淡や線にあらわれる「影」に着目している。また、いかにして芸術作品は「翻訳不可能なもの」を体現し得るのかについて研究/制作を行なう。2019-20年、文化庁新進芸術家海外研修制度一年研修員としてアメリカ合衆国ニューメキシコ州に滞在、現地を拠点に活躍した芸術家アグネス・マーティンの「抽象表現」を探る。米国サンタフェを拠点に実施した、アグネス・マーティンの芸術実践に関する研修活動を継続する形で国内で展開している制作と研究を、遊工房での3ヶ月間の活動を通して更に深化させ、ドローイングを中心とした作品にまとめ、終盤に展覧会 “Meeting and Greeting Like Shadows” として発表した。

彼女の遊工房での活動は、2010年個展開催、そして、その後、ギャラリー&レジデンス運用のスタッフとして活動（2011-2013年）以来となる。



1-2 展示プログラム

2021. 01. 15 - 2021. 02. 16 Meeting and Greeting Like Shadows | 進藤詩子 文

2021. 03. 25 - 2021. 03. 29 ハウス オブ マイ エモーション
| 高橋凜、亀田マリアナ、曹暁泰 文 Y

2021. 04. 17 - 2021. 04. 25 Lottery exhibition - Ai Mi Tagai 2021 Y
| Alice Jacobs・Anais Comer・Daria Blum・Eleanor Turnbull・郷治竜之介・Gillies
Adamson Semple・堀内崇志・堀内悠希・川越健太・O JUN・Tuli Litvak・渡邊庸平

2021. 06. 19 - 2021. 06. 27 Ai mi Tagai 2021 Y
| アナイス・コーマー、アリス・ジェイコブス、臼井仁美、エレノ・ターンブル、O JUN、
川越健太、グラハム・エラード&スティーブ・ジョンストン、郷治竜之介、ジョン・バテ
ィストウ・ラガデキ、ダリア・ブルム、地村洋平、トゥーリ・リトヴァック、東山詩織、
藤原信幸、堀内崇志、堀内悠希、リディア・デイヴィス

<2021. 07. 01 - 2021. 09. 30 コロナの為、一時閉鎖>

2021. 11. 03 - 2021. 11. 23 アーティストの置き土産 vol.1
| 遊工房レジデントアーティストたち

2021. 12. 15 - 2021. 12. 21 アーティストの置き土産 vol.2
| 遊工房レジデントおよび国内展示アーティストたち

前年より継続のバーチャル・プロジェクト

2020. 11. 19 - 2022. 12. 31 Ai mi Tagai 2020 London, Web Project 文 Y
| LTYE プログラム体験アーティスト

2021. 01. 15 - 2021. 02. 16

進藤詩子

Meeting and Greeting Like Shadows

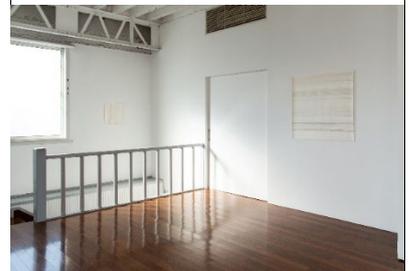
「翻訳不可能なもの」をテーマに、研究と制作を両輪とした活動を国内外で行う。近年は、光と闇の間でさまざまに「うつ（移、写、映、撮）る」、濃淡や線にあらわれる「影」に着目した芸術を実践している。2019-20年文化庁新進芸術家海外研修員としてアメリカ合衆国ニューメキシコ州に滞在し、芸術家アグネス・マーティンの「抽象表現」を探った。2020年12月より遊工房アートスペースのレジデンス・アーティストとして、近年の活動のまとめとなるシリーズ作品の制作を行った。本展 ‘Meeting and Greeting Like Shadows’ はその発表の場である。

<https://www.utakoshindo.info/sp/exhibition2021/video/>
<https://www.youkobo.co.jp/news/2021/02/meeting-and-greeting-like-shadows.html>

・関連イベント

オンラインアーティストトーク：2月20日（土）12:00 - 13:00
ゲスト：リンダ・スワンソン（アーティスト、教育者、ライター、Forde Visser Archive ディレクター）

<https://us02web.zoom.us/j/85791129328?pwd=amNFanByS2F1ZDdWT3BHb3UxT1ZIUT09>



2021. 03. 04 - 08・第1部、03. 25 - 29・第2部

高橋凜、亀田マリアナ、曹暁泰

ハウス オブ マイ エモーション

藝大グローバルアートプラクティス科（GAP）の選抜アーティスト、日本、メキシコ、中国の3名によるスタジオ制作と展示。藝大GAP修士コースと遊工房アートスペースの協働による若手アーティスト支援プログラム。（Y-AIR 実践活動）

・関連イベント

トークイベント 3月26日（金）19:00

ゲスト：毛利悠子



2021.04.17 - 2021.04.25

Alice Jacobs・Anais Comer・Daria Blum・Eleanor Turnbull・郷治竜之介・Gillies
Adamson Semple・堀内崇志・堀内悠希・川越健太・O JUN・Tuli Litvak・渡邊庸平
Lottery exhibition - Ai Mi Tagai 2021

2020年には、ロンドン芸術大学 CSM 学内ギャラリーにおいてロンドン版「Ai Mi Tagai」展が開催される予定であったが、COVID-19により事実上の中止となったことを受けて、現在の状況で実現し得るフィジカルな展示の探求として、在京アーティストによって複数の展示計画が立案され、実施された。前半の4月は、日英12名のアーティストが参画、まずくじ引きによって一名、「インストーラー」を選出。選出されたインストーラーは、自作を展示しない代わりに、各作家の作品群から配置などを決定し、展覧会を構成した。本展に参加する各作家は、偶然選ばれた他者による判断に、作品を委ねることになる。実際の展覧会を鑑賞することと同じように、あり得たかもしれない展覧会の様相を想像することもまた、本展において実験されるテーマ。

・記録集：<https://www.youkobo.co.jp/news/2021/09/ai-mi-tagai-202146.html>



2021.06.19 - 2021.06.27

アナイス・コーマー、アリス・ジェイコブス、白井仁美、エレノ・ターンプル、O JUN、川越健太、グラハム・エラード&スティーブ・ジョンストン、郷治竜之介、ジョン・パティストウ・ラガデキ、ダリア・ブルム、地村洋平、トゥーリ・リトヴァック、東山詩織、藤原信幸、堀内崇志、堀内悠希、リディア・デイヴィス
Ai mi Tagai 2021

本展は4月17日(土)から25日(日)にかけて行われた「Lottery exhibition - Ai Mi Tagai 2021」に次いで実施された。これまでの活動を通じて培われてきた作家同士の関係性を活かし、協力のもとに継続されたこの一連のプロジェクトは、国際間の相互の理解や連携、共生を深め、持続可能な社会にとって必要不可欠な試みであると考えている。

コロナ禍における混乱に落ち着きを取り戻された先には、これまでの継続と試みが齎し獲得したものを実践的に表現する場所として、2020年に延期となっている展覧会「アイミタガイ・ロンドン編」を改めて計画し実施することを私たちは見据えている。

・記録集：<https://www.youkobo.co.jp/news/2021/09/ai-mi-tagai-202146.html>



2021. 11 & 12

遊工房滞在アーティストと展示アーティスト達

アーティストの置き土産 vol. 1 & Vol. 2

・ビデオ記録：

<https://vimeo.com/696402705>

企画展示のお知らせ

11月企画

・会期：11月3日(水・祭)～ 11月23日(火・祭)
・開場：13:00～18:00 会期中、月・火休み、但し、最終日・11月23日はオープン。
・タイトル：「アーティストの置き土産 vol.1」
・内容：
遊工房に滞在したアーティスト達のプレゼント作品を中心に展示し、この30数年間360人余りの滞在制作をした、アーティスト達が、アートを通して残してくれたもの、人との繋がり、生き方、考え方、気付き等々を思い紡いでいきます。

12月・師走企画・開場：13:00～18:00.

・タイトル：「アーティストの置き土産 vol.2」

・内容：

vol.1の展示を基に、遊工房で展示・発表をした在京アーティスト達が残した作品を展示に加え、在京、滞在アーティスト相互のアートを通じた交流や繋がりを考え、レジデンス・プログラムの価値を究めます。

vol.1・2とも会期中の展示は日々変化していきます。

2021. 11. 03 - 2021. 11. 23

遊工房滞在アーティスト達

アーティストの置き土産 vol. 1

遊工房に滞在したアーティスト達のプレゼント作品を中心に展示し、この30数年間360人余りの滞在制作をした、アーティスト達が、アートを通して残してくれたもの、人との繋がり、生き方、考え方、気付き等々を思い紡いでいきます。会期中の展示は日々変化していきます。

会期中の展示は日々変化して、12月開催の「アーティストの置き土産 vol. 2」に接続された。



2021. 12. 15 - 2021. 12. 21

遊工房滞在アーティストと展示アーティスト

アーティストの置き土産 vol. 2

この展示は11月開催の「アーティストの置き土産 vol. 1」の展示を基に、遊工房で展示・発表をした在京アーティスト達が残した作品を展示に加え、在京、滞在アーティスト相互のアートを通じた交流や繋がりを考え、レジデンス・プログラムの価値を究める試みとなった。

本展の実施に関わる30年超のAIR活動を中心とした遊工房の活動のアーカイブ整理を進めている。

遊工房内にAIR活動のアーカイブセンターを設置し公開する予定。

仮称「遊工房の歩みーマイクロレジデンスと共に」



2020. 11. 19 – 2021. 12. 31

Ai mi Tagai (アイミタガイ) アーティスト[日本、イギリス]

Ai mi Tagai Web Project – Ai mi Tagai2020 London

2015年から毎年実施している「London Tokyo Y-AIR Exchange Programme(LTYE)」の5年目の節目として、これまでの参加作家及び協力美大教員によるグループ展覧会と、この活動評価のためのフォーラムを実施する日英協働プログラム。2019年、LTYE活動の5周年を迎え、総括として「Ai Mi Tagai」展が2019年7月東京で開催された。このロンドンでの2020年11月の開催計画はパンデミックの為に中止となったが、両国の作家中心に立ち上げたオンライン上での創作・交流活動、「Ai mi Tagai Web Project」が、当初計画の展覧会プレビュー日程に合わせてWeb公開を始めた。このWebプロジェクトは、WORKSPACEとSHOWSPACEにアクセスするホームページの3つの構成で、ホームページは、プロジェクトを紹介し、他の2つのスペースに誘導する。WORKSPACEは、プロセスと交換に重点を置いたもの。機能性に重点を置き、画像、テキスト、音声、ビデオ、他のサイトへのリンク、コメント、メッセージ、アラート、ファイル共有などを含めることができ、すべてのアーティスト（アクセス権と編集権を持つサイトの「メンバー」）が編集可能となる。このオンライン活動は2021年いっぱい継続、活発な交流活動となった。

・Ai mi Tagai (アイミタガイ) アーティスト :

アビー・ジョーンズ, アリス・ジェイコブス, 磯村暖, エレノ・ターンブル, OJUN, 川越健太, ギリース・アダムソン・センブレ, グラハム・エラード&スティーブン・ジョンストン, 郷治竜之介, ショーン・ラヴェール, ジョンパティストウ・ラガデキ, ダリア・ブルム, 地村洋平, トゥーリ・リトヴァック, 東山詩織, 藤原信幸, 堀内崇志, 堀内悠希, リディア・デイヴィス, 臼井仁美, 渡邊庸平, アナイス・コム, ハンナ・ドーセット

・WEBSITE : <https://www.aimitagai.com>

・WORKSPACE : <https://www.notion.so/4bca1ef141d2423f8c1871e00c0e83d5>

・SHOWSPACE : <https://www.aimitagai.com/show-space>

・INSTAGRAM : https://www.instagram.com/london_tokyo_y_air/

・CSM SPEAKING WITH EMPATHY INSTAGRAM

: <https://www.instagram.com/speakingwithempathy/>



1-3 イベント、アーティストトーク、クリティック・セッション

・アーティスト・トーク

2021.02.20 進藤詩子

ゲスト：リンダ・スワンソン（アーティスト、Forde Visser Archive Director）

<https://www.utakoshindo.info/sp/exhibition2021/talk/>

2021.03.26 高橋凜、亀田マリアナ、曹暁泰

ゲスト：毛利悠子

https://youtu.be/Sg0_I0npgvk

2021.04.17 Lottery exhibition - Ai Mi Tagai 2021

郷治竜之介、東山詩織、堀内崇志、臼井仁美

活動記録：<https://www.youkobo.co.jp/news/2021/09/ai-mi-tagai-202146.html>

2021.06.26 Ai mi Tagai 2021 Tokyo

臼井仁美、郷治竜之介、東山詩織、堀内崇志

活動記録：<https://www.youkobo.co.jp/news/2021/09/ai-mi-tagai-202146.html>

・シンポジウム、セッションなど

2021.01.22～02.15

「AIR とパンデミック研究会」個別面接中心のインタビュー

5. 関連活動、5-2. 研究の項、参照

2021.11.03 「トロールの森」20周年オンラインシンポジウム

<http://www.trollsinthepark.com/symposium/>

2021.11.03～11.23・Vol.1 及び 12.15～12.21・Vol.2

「アーティストの置き土産」展 vol.1 及び vol.2.

展示とアーカイブ「遊工房マンダラ」についての公開トーク

5. 関連活動、5-2. 研究の項参照

ビデオ記録：<https://vimeo.com/696402705>

2. 関連活動

AIR 事業の実践を通し、AIR がアーティストの活動の一つの要素となり、また同時に社会において大切な役割を持つ存在となることを目指す。アーティストの滞在制作、発表の機会と場としての AIR 活動をベースとした関連活動は、4つの柱で展開している。

「AIR 交流プログラム」は、「国際機関からの受入」：国際機関との覚書に基づく継続的な受入事業と、「海外の AIR 活動機関との交換プログラム」：海外 AIR への派遣と、その発展形としての受入・派遣の交換プログラムで、国内アーティストの海外での活動の機会と場の創設も大切なミッションと考えている。

また、2013年 AIR と美大の協働から生まれた「Y-AIR」概念の実践活動は、美大卒業間もない若手アーティストの AIR 体験機会の創出と共に、AIR 運営の実際の体験や、滞在者をサポートするインターンシップを通じた人材育成などの活動として、「Y-AIR の実践」を進めている。

「ネットワーク活動」は、国内外の AIR プログラム間、AIR 活動支援機関などとのネットワーク活動。「地域活動、コミュニティーアート」は、地域でのアートを通じた活動として、都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」へ継続参画の活動がある。「調査・研究」では、AIR の一層の顕在化、AIR と美大の協働による諸活動と調査研究は、関係者との共有を意図して、その活動成果の報告会や、資料閲覧なども実施している。特に、マイクロレジデンスの存在、そのネットワーク活動との連携を重点にしている。

以上の考えの基、以下、6つの節に整理している。

- 2-1 AIR 交流プログラム
- 2-2 Y-AIR の実践
- 2-3 ネットワーク活動
- 2-4 地域活動、コミュニティーアート
- 2-5 調査・研究
- 2-6 アーカイブス

2-1. AIR 交流プログラム

1. 「国際機関からの受入」2021：いずれもコロナで停止

- ・在日 Luxembourg 大使館・Luxembourg 文化省：2011年開始
- ・Asia New Zealand Foundation, アジア・ニュージーランド財団（オークランド）2015年開始
- ・Finnish Writers Union, フィンランド小説家協会（ヘルシンキ）2016年開始
- ・Passa Porta, ベルギー小説家協会（ブリッセル）2020年開始予定であった。

2. 「海外の AIR 活動機関との交換プログラム」2021：いずれもコロナで停止

- ・KAIR, Kosice Artist in Residence（スロバキア・コシチュ）2013年開始

- ・ Finnish Artists' Studio Foundation (FASF) 交換プログラム (ヘルシンキ) 2017 年開始。
- ・ studioName 交換プログラム (レスター・UK) 2019 年開始

2-2. Y-AIR の実践

1. Y-AIR Network Forum 2021 London:

継続フォーラムとしての 2021 年ロンドン開催 (ロンドン芸大 CSM 校) はコロナの為、中止。

AIR と美大の協働を通し、多様な Y-AIR の実践活動の共有、活動評価を通して国際間の交換プログラムの仕組み作りを目指す国際フォーラムが、2020 年 2 月に東京で開催 (女子美術大学幹事校)。

- ・ 東京開催：2020 年 2 月 7 日 (金)、8 日 (土) ・ 女子美術大学
- ・ タイトル：Y-AIR 構想 — 「AIR × 美術大学」によるアーティストの国際的キャリアの形成
- ・ 参画機関：女子美術大学、東京藝術大学、ロンドン芸術大学 CSM 校、オーストラリア・RMIT (メルボルン)、西ボヘミア大学 (チェコ)、アジア・パシフィック・カレッジ (マニラ)、ラップランド大学 (フィンランド)、Waria Artbreak (フィンランド)、BMLab (マニラ)、陸前高田 AIR (岩手)、天空の芸術祭 (長野) 遊工房アートスペース (東京)、AIR ネットワークジャパン
- ・ 記録冊子：http://www.youkobo.co.jp/news/Y-AIR_Forum_2020_Tokyo.pdf

2. Y-AIR 実践活動 2021：いずれもコロナで停止

① LTYE プログラム (London/Tokyo Y-AIR Exchange Program) 2021：**LTYE2020 の 2021 シフト計画、中止。**

ロンドン芸術大学 CSM 校と ASP (Associate Studio Program) と、東京藝大・油画研究室と遊工房アートスペースによる協働プログラム：2015 年開始

② アイミタガイ | Ai mi Tagai Project 2021：**4 月～6 月、東京・遊工房でのフィジカル展覧会の開催の実現。**

LTYE プログラム・5 周年を機に結成された体験作家及び協力美大教員によるグループ展と活動評価のプロジェクト。2019 年 7 月東京開催に続く 2020 年 11 月ロンドン開催計画は中止となり、展覧会イベントとは別に、オンラインでの相互創作活動を通じた交流、「Ai mi Tgagai Web Project」開始。**2021 年 9 月まで継続された。**「Ai mi Tagai Web Project」：

<https://www.aimitagai.com/>

<https://www.youkobo.co.jp/news/2021/09/ai-mi-tagai-202146.html>

③ Y-AIR Artist Exchange Program, Finland and Japan, **2021：停止**

2017 年から始まった、フィンランドのマイクロレジデンス・Art Break と Lapland 大学、日本側、遊工房と東京藝大による Y-AIR 交換プログラム。**2020 年、「天空の芸術祭 2020」開催中止に伴い、その後の交換プログラムは停止。**

④ Y-AIR 海外派遣プログラム - 西ボヘミア大学 ArtCamp **2021：停止**

2020 年は、Camp への受講生及び、Camp 講師役アーティストの派遣を計画したが、ArtCamp 中止に伴い停止した。

「EU/Japan Fest 日本委員会 (東京)」の紹介、協力で 2013 年から始まった。チェコ・Pilsen 市にある西ボヘミア大学で毎年夏に開催されているアートの国際サマースクール「ArtCamp」に、2013 年より国内美術系大学教官 (研究室) の協力を得て、美大生およびアーティストを派遣するプログラム。異文化での短期滞在型 (3 週間) 創作交流機会は、アートとの研鑽と共に、国際交流に挑戦するもの。2015 年からは Camp 講師の派遣も始まった。2020 年中止。

⑤ Young Basque Artists' Residency in Japan, 2021 : **停止**

スペイン・バスク自治政府の若手アーティスト支援プログラム「ERTIBIL BIZKAIA」受賞者の日本のAIR体験機会の協力要請を受け、AIRと美大の協働するY-AIR活動の一環として、遊工房アーツ ペースと女子美術大学の協働で2018年から始まった若手アーティスト支援活動。国内のAIRの協力を得て受入、地域の美大との協働も背景に継続してる。

⑥ 東京・メルボルンY-AIR 交換プログラム 2021 : **2020年の受入計画は中止、その後の計画は再検討となる。**

メルボルンの美大・RMITの文化芸術研修プログラム「The Japanese Contemporary Art Study Intensive (J-CASI)」の2019年9月の交流をきっかけに、両都市間のAIRと美大の相互交換の実現計画として、2020年からの遊工房への受入と、2021年以降の相互交換の覚書を交わした。

3. 遊工房インターンシップ 2021 : 停止

遊工房でのAIR運営の実習を通じた体験活動、国際インターンシップ制度 (Global Internship Program, GIPは2006年より開始、また、次世代人材の育成のための、国内美大中心の学生インターンシップ制度は。2013年より開始した。

遊工房のレジデンス・プログラムと展示・スタジオ・プログラムさらに関連するネットワーク活動を実践を通して体験するインターン制度。半年から1年間の実習プログラム。

2-3 ネットワーク活動

AIRが社会的な存在となることを目指し、国際AIRネットワーク、国内AIRネットワーク他、関連の活動ネットワークへ積極的に参加している。また、2012年に創設したマイクロレジデンス・ネットワークを通じた独自国際活動も展開している。

各AIRプログラム間やAIR活動支援機関との繋がりなど、様々なネットワーク活動を通し、AIR利用者であるアーティストや研究者などの活動機会の一層の顕在化、活動機会創出、活動支援や運営の資金の捻出など直接の活動支援と共に、さまざまなAIR活動の共同研究などを行なっている。2021年、コロナ禍での活動はオンラインでの活動に限られてしまったが、コロナ後の再活動を意図した活動への参画を実施してきた。

2021年トピック

1. Res Artis 世界会合



Defining the Next Decade 8 - 17 September 2021

2019年京都会議の続く世界会合は2020年実施なく、2021年9月にバンコック開催が決定、完全なオンラインでの実施となった。

Res Artis Conference 2021 Bangkok は、2021年9月8日から17日の2週間にまたがる正味6日間のオンライン開催。

・主催：Res Artis、共催（ホスト）：SAC Gallery, Bangkok

・テーマ：“Defining the Next Decade” 「次の10年を定義する」

<https://resartis.org/res-artis-conferences/past-conferences/bangkok-2021/>

・参画セッション：9月16日（5日目）

テーマ：ネットワークの重要性（ワークショップ）

セッションメンバ：Kai Latvalehto (Northern AiR, Finland), Tatsushiko Murata (Microresidence Network, Japan),
Carolyn Casey (Res Artis, Australia), Arda van Tiggelen (TransArtists, Netherlands),

セッションメンバからのそれぞれのネットワーク概要説明後、公開のワークショップとして討論中心の展開。それぞれのネットワークの特徴に合わせたコロナ後の活動再開を確認した。半々4日間・夕方、後半2日間・朝方での時間設定などタイムゾーンを工夫しての開催。開催都市の紹介、同時開催の参加者側の苦勞などなど、オンライン運営の苦勞がにじみ出ている。コロナ後への期待と共に、コロナ禍での苦勞が共有された会議であった。

The importance of networking: https://youtu.be/V_0icp9PvYk

2. マイクロレジデンスネットワーク・研究会実施—「AIRとパンデミック研究会」

マイクロレジデンス運営者のコロナ禍の状況を伺うと共に、レジデンス利用者であるアーティストのコロナ下での活動などアンケート方式で調査。その後、抜き取りに手の追加インタビューなど実施、調査結果を報告書としてまとめ公開した。

「2-4. 調査・研究」参照。

<https://www.youkobo.co.jp/news/2021/03/air2020.html>

2-4 地域活動、コミュニティーアート

アーティストの社会的な存在を、その活動を通して広く認知してもらうことは、地域にある遊工房の大事な役割でもありと考えている。身近に現代アートに触れる機会として、遊工房自身が発信するイベントばかりでなく、地元都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」、地域の公立小学校の土曜教室「アートキッズ」などとの共催と共に、地域で活動する各種アート団体との連携も積極的に進めている。地域連携としての、地元教育機関（小・中、高等学校、専門学校ほか）アート系NPO、創作教室、ギャラリーなどとの連携は、地域にあるリソースの活用としても大事な側面となる。

1. トロールの森 2021

近隣にある都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」は2021年継続開催20周年を迎えた。2002年、僅か3人の国内外の若手アーティストとで始めたもの。すっかり地域に根を張り、野外でのインスタレーション、パフォーマンス、さらに、公園から最寄りのJRの駅を結ぶ広域でのアートの各種催しも加わる展開となっている。コロナ禍での規制がある中、統一テーマ「深く息をする、ー Breathe deeply-」として開催された。遊工房アートスペースもサテライト会場として参画。当初の計画では、トロールの森の初代参加作家の一人であるフィンランドの作家・アンティ・イロネンさんの参加予定であったがコロナ禍での来日は中止となり、代替の計画がすすめられた。「アーティストの置き土産」として、遊工房レジデンスの開始から30年超、その間に寄せられたアーティストの作品などを展示、「AIR」とは何かを考える場を設定した。

遊工房に関わる国内外のアーティストとの再会（オンラインも含む）、来訪者との対話、そして夏から始めた30年間の活動の整理作業から見えてきたことをベースに、「遊工房マンダラ」の出現ともなった。

① 20周年記念シンポジウム開催：トロールの森2021 オンライン シンポジウム



- ・2021年11月3日（水・祭）19:00-21:00
- ・会場：遊工房アートスペース+zoom meeting
- ・パネリスト：
オンライン：Antti Ylönen、Jaime Humphreys、カワムアツノリ、金沢寿美、黒野裕一郎、鳥越けい子、本永安芸夫
遊工房：高島亮三、村田達彦、村田弘子、村松真千子
司会：高城佐知子
技術：あさみ順子、石黒浩之、野田栄一、野田昌宏
- ・流れ：Part1 トロールの森20年を振り返る、Part2 トロールの森が果たしてきた役割

https://www.youtube.com/watch?v=k_IHEOQJzIM

② トロールの森 春展 2021 「森に遊ぶ子ども達」

2021年4月29日(木)～5月9日(日)都立善福寺公園・ももしの森にて、トロールの森・子供の春展の17年目開催、桃井第四小学校4年生95人の作品群の野外展開催。

野外アート展「トロールの森」は当初3年間は、新緑の候4月～5月にかけての1か月開催であった。2002年～2004年。2005年春、NYCからの現代美術家・篠原有志男さんと地元の桃井第四小学校4年生102人の段ボールを用いての、思い思いの「春鳥」を制作、新緑の善福寺公園をパワフル&カラフルに彩った。この時以降、春のゴールデンウィークは子供の春展として毎年、善福寺公園「ももしの森」を会場に、トロールの森春展として、4年生の授業の一部となり、以降継続開催となっている。

2-5 調査・研究

AIR活動実践を通じた調査・研究活動として、自らの調査と共に、Face to Faceの対話をベースにAIR相互訪問をはじめ、寺子屋的な会合、公開のフォーラム、シンポジウム等の開催、参画などを積極的に展開。AIRの社会装置としての存在を社会にアピールする大事な活動である。研究・調査活動は報告としてまとめ、Webを通し公開し情報共有に務めている。予算次第で印刷発行も適時実施。

1. 「AIR とパンデミック研究会」調査報告書発行、2010年3月

パンデミックの影響がアートの活動領域に及ぼす実態や、AIRに関わる、利用者や運営者である私たちが抱える課題を抽出し、今後のAIR(アーティスト・イン・レジデンス)に関わる活動に役立つヒントを提供できることを期待して始めた。

「2019年2月京都に集った国内外のマикроレジデンスの仲間はどうしているだろうか?」。その頃、AIR活動団体の世界ネットワーク・Res Artisによる緊急調査からの「アーティストのAIR活動計画の取消・短縮・延期が半数あったこと、AIRプログラムの無期限閉鎖1割」との速報を受信したことも切っ掛けとなった。2020年11月、マクロレジデンス、Y-AIRそして遊工房の持つネットワークデータ中心に、ONLINEによるアンケート調査依頼、12月回収し調査分析、追加インタビュー調査等実施し、調査報告書としてまとめ2021年3月報告を公開した。<https://www.youkobo.co.jp/news/2021/03/air2020.html>

2. 「アーティストの置き土産」展示と公開ワークショップ

遊工房AIR(レジデンス)滞在制作アーティスト・研究者受入開始30年超となった現在、その活動の総仕上げとして、作家からの寄贈含む置き土産である作品と資料の整理、そして、その記録・編集作業を夏から開始した。

コロナ禍で海外からの作家受入が止まったことで、空いているスタジオスペースを整理作業スペースとして活用、11月からの地域のアートイベント野外展「トロールの森」開催に合わせての公開をターゲットに作業を開始。

遊工房での各作家の時間軸をベースとした活動の実態、滞在中の創作活動と共に、同時期の様々な交流活動から読み取る事象などを整理していくことになった。思い出にふけることも多々出てきたが、作品中心の展示計画の作業と、多様な活動から読み取れる「AIRのエッセンス」などなど、年表の整理というか、資料整理中中心の「遊工房マンガラ」編集作業の二手に分かれ作業を進めてきた。

トロールの森と同期した時期での公開: vol.1、師走の企画としての公開: vol.2の2階に分けて展覧会とアーカイブセンター公開を実施した。

http://www.youkobo.co.jp/exhibition_events/2021/10/1112.html

http://www.youkobo.co.jp/exhibition_events/2021/11/-vol2.html

ビデオ記録: <https://vimeo.com/696402705>

3. 関連する活動

① 講演

- ・ 2021.02.22 「Artist-in Residence (AIR) in Japan」講演、村田達彦
横浜市・黄金町エリアマネジメントセンター「AIR マネージャー・インターン・イン・レジデンス」
オンライン講座

② 調査訪問・交流

- ・ 2021. 01. 22 ~ 02. 15
「AIR とパンデミック研究会」調査追加インタビュー・オンライン：村田達彦・弘子、岩間香純
ゲスト：高倉吉規、東海林慎太郎、松山隼、金井学、日沼禎子、進藤詩子、川越健太、蔦谷楽、飯高克昌、松崎宏史、坂本泉
Andrew Tetzlaff, Steven Allbutt & Yuka Namekawa, Kaisa Keratar, Tessa Fritz, Mkrtich Tonoyan, Ferit Ozsen, Anat Litwin
- ・ 2021. 08. 22
「坂本泉」展 ギャラリー・イグレグハヶ岳・佐藤友香、AIRY・坂本泉
- ・ 2012. 08. 23
北杜の芸術村 シャマン・デュ・ボヌール・細川たかみ、AIRY・坂本泉

③ フォーラム

- ・ シンポジウム等 2021.09.16 Res Artis Conference 2021 Bangkok 世界会合・6日目セッション、「ネットワークの重要性」
- ・ 2021. 11. 03 トロールの森 20 周年記念シンポジウム@遊工房、「トロールの森 20 年を振り返る、そして果たしてきた役割」

2-6 アーカイブス

AIR 実践をベースに関連する諸活動、マイクロレジデンスの一層の顕在化、AIR と美大の協働による無限の可能性の調査研究は、共有すべく活動報告として発表、また、調査した AIR 情報は、遊工房滞在作家の活動記録と共に、アーカイブとしての整理を心掛けている。国内外の AIR プログラムデータ、滞在アーティスト外の活動記録、調査研究の成果のアーカイブは順次閲覧できるようにしており、AIR への参加の助言、AIR 設立やネットワーキングの相談なども適時受付けている。AIR プログラムの調査・研究を通し、AIR そして「マイクロレジデンス」の顕在化する活動も進めている。アーティストと共に、社会でのその活動の意義が広く浸透することを願っている。

COVID-19 コロナによるパンデミックは、これまでの人々の生活に多くの課題を突き付けている。

身近な社会の矛盾、地球規模の課題などなど、これまでの惰性でない意識を持って行動することが求められている。公助の意識で事に当たることも、これまで以上に求められることになったと考える。アートが出来ること、アーティストと共にできること、これまでのレジデンス運営を通して考えられることを整理している。「遊工房マンダラ」を通して対話が進むことを期待して、パンデミック後の遊工房に公開アーカイブセンターを起し、AIR の本当の話をしたい。

「アーティストの置き土産」ビデオ記録：<https://vimeo.com/696402705>

・出版物、掲載記事など

1. 出版物

2021.02.20 「Meeting and Greeting Like Shadows」 進藤詩子

2021.03.31 「Y-AIR 構想 — 「AIR × 美術大学」によるアーティストの国際的キャリアの形成」

2021.03.31 「パンデミック禍で考えたこと—AIR とパンデミック研究会報告 2020」

2021.03.31 「アイミタガイ AimiTagai—ロンドン・東京 Y-AIR 交換プログラム、6年目の顛末 Y-AIR の可能性—ロンドンとの試み」

2021.05.27 「Youkobo Art Space *Overlapping Tendencies* 」

Open house magazine 最新号にて、遊工房に関してのエッセイ。エッセイ・Forde Visser、写真・進藤詩子

2021.09.30 「アイミタガイ 2021 | 記録集 | 1・2 | 」

日・英の若手アーティスト・Ai mi Tagai チーム、2021年春・4月と6月の活動記録集

2021.12.31 「遊工房アールスペース年次報告 2021」

2021.12.31 「アーティストの置き土産」ビデオ記録

2. AIR 展覧会カタログ、案内状など

会期	イベントタイトル・アーティスト	内容
2021.02.17 - 2021.02.27	Meeting and Greeting Like Shadows 進藤詩子	DM、カタログ
2021.03.25 - 2021.03.29	ハウス オブ マイ エモーション 高橋凜、亀田マリアナ、曹暁泰	DM、カタログ

3. 掲載記事等

①美術手帖 ART NAVI、月刊ギャラリー、Tokyo Art Beat、各国大使館・文化センター・交流機関 HP にて 滞在及び展示情報掲載

②新聞

・「東京新聞」10月13日掲載（「守れ！都会の二ホンミツバチ」）

④ 情報誌

・「杉並アートサイト」11月6日「Youkobo Now」

